

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2024年7月26日）

■第2刷（2023年3月15日発行）の修正・更新箇所

※第1刷からの修正箇所はhttps://www.yodosha.co.jp/correction/9784758109130_corrections.pdf をご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第1章 栄養療法の基本のキホン					
28	下から13～11行目	②NTS 適応はなく0点, ③絶食のため2点, ④下痢以外3つの消化器症状があり3点, ⑤寝たきりではないので0点, ⑥胃がんがあり1点,	②NST 適応はなく0点, ③絶食のため2点, ④下痢以外3つの消化器症状があり3点, ⑤寝たきりではないので0点, ⑥胃がんがあり2点,		24/03/29
33	上から11行目	b) TEE = (25～30 kcal)/kg × SF:	b) TEE = (25～30 kcal)/kg × <u>体重 (kg)</u> × SF:		24/03/29
36	上から12行目	通常は20%脂肪乳剤100 mL, TEE が大きい場合や糖質を制限したい場合は200 mL 投与します(第3章-5 参照).	<u>投与の目安はTEEの10～20%とし</u> , 通常は20%脂肪乳剤100 mL, TEE が大きい場合や糖質を制限したい場合は200 mL 投与します(第3章-5 参照).		24/07/26
37	「ここだけは Check!」1つ目	総エネルギー必要量は, BEE × AF × SF, あるいは25～30 kcal/kg × SF で算出する	総エネルギー必要量は, BEE × AF × SF, あるいは25～30 kcal/kg × <u>体重 (kg)</u> × SF で算出する		24/03/29
50	上から3行目(「①総エネルギー必要量」の1行目)	・理想体重 (IBW) の方が <u>実</u> 体重より軽いので, IBW を使って算出します.	・理想体重 (IBW) の方が <u>現</u> 体重より軽いので, IBW を使って算出します.		24/03/29
50	上から4～7行目(「①総エネルギー必要量」の2～5行目)	・体重あたりの消費エネルギー量を30 kcal/kg <u>として</u> , <u>BEE=30 kcal/kg × 体重=30 × 56.3=1,689 kcal/日</u> ・SF1.15(CRP上昇による代謝亢進)とすると, TEE=BEE × SF=1,689 × 1.15=1,942 ≒ 1,940 kcal/日	・体重あたりの消費エネルギー量を30 kcal/kg とし, <u>SF1.15(CRP上昇による代謝亢進)とすると</u> , TEE=30 kcal/kg × <u>体重</u> × SF=30 × <u>56.3</u> × 1.15=1,942 ≒ 1,940 kcal/日		24/03/29
52	上から3行目(「①総エネルギー必要量」の1行目)	・ <u>実</u> 体重の方がIBWより軽いので, <u>実</u> 体重を使って算出します.	・ <u>現</u> 体重の方がIBWより軽いので, <u>現</u> 体重を使って算出します.		24/03/29
52	上から4～7行目(「①総エネルギー必要量」の2～5行目)	・体重あたりの消費エネルギー量を25 kcal/kg <u>として</u> , <u>BEE=25 kcal/kg × 50=1,250 kcal/日</u> ・SF1.2(発熱, CRP上昇, 換気障害による代謝亢進)とすると, TEE=1,250 × 1.2=1,500 kcal/日	・体重あたりの消費エネルギー量を25 kcal/kg とし, <u>SF1.2(発熱, CRP上昇, 換気障害による代謝亢進)とすると</u> , TEE=25 kcal/kg × 50 kg × 1.2=1,500 kcal/日		24/03/29
54	上から13行目(「①総エネルギー必要量」の1行目)	・ <u>実</u> 体重の方がIBWより軽いかつ短期間で5 kg減少,	・ <u>現</u> 体重の方がIBWより軽いかつ短期間で5 kg減少,		24/03/29
54	上から16～19行目(「①総エネルギー必要量」の4～7行目)	・体重あたりの消費エネルギー量を30 kcal/kg <u>として</u> , <u>BEE=30 kcal/kg × 51=1,530 kcal/日</u> ・SF1.1(担がん状態による代謝亢進を推測)とすると, TEE=1,530 × 1.1=1,683 ≒ 1,680 kcal/	・体重あたりの消費エネルギー量を30 kcal/kg <u>とし</u> , <u>SF1.1(担がん状態による代謝亢進を推測)とすると</u> , TEE=30 kcal/kg × <u>51 kg</u> × 1.1=1,683 ≒ 1,680 kcal/日		24/03/29

55	下から15～12行目 (「3.具体的な食事・輸液処方を考えよう」の1～4行目)	短期間で10%程度の体重減少をきたしていることから、栄養学的なリスクが高いと推測します。時間が許せば2週間程度栄養状態を改善してから手術を実施する方が、術後の創傷治癒や感染性合併症の防止に有利です。術前の1週間は1,900 kcal/日 (SF1.15)に増量したいところです。	短期間で10%程度の体重減少をきたしていることから、栄養学的なリスクが高いと推測します。時間が許せば2週間程度栄養状態を改善してから手術を実施する方が、術後の創傷治癒や感染性合併症の防止に有利です。術前の1週間は1,750 kcal/日 (SF1.15)に増量したいところです。		24/03/29
62	下から11行目	TPNキット製剤や微量元素製剤には必須脂肪酸9種類のうち	TPNキット製剤や微量元素製剤には必須微量元素9種類のうち		24/03/29
69	下から3行目	ジペプチド、トリペプチドは小腸粘膜上皮細胞内でアミノ酸に分解され、	それより大きいサイズのペプチドは小腸粘膜上皮細胞内でアミノ酸に分解され、		24/07/26
第2章 経腸栄養療法のキホン					
86	上から2行目	ほとんどの医薬品経腸栄養剤は1970年以前に発売されているため、	ほとんどの医薬品経腸栄養剤は2000年以前に発売されているため、		24/07/26
87	下から5行目	前述9種類以外の栄養剤はすべて半消化態栄養剤であり、	前述10種類以外の栄養剤はすべて半消化態栄養剤であり、		24/03/29
89	図3 図中央の消化態栄養剤の下	(消化態栄養剤)食品 5種類	(消化態栄養剤)食品 6種類		24/03/29
90	下から3～2行目	現在200種類を超える半消化態栄養剤を利用することができますが、このうち医薬品は5種類。	現在200種類を超える半消化態栄養剤を利用することができますが、このうち医薬品は6種類。		24/03/29
101	上から6行目	上部消化管で吸収され残渣は残りません。	上部小腸で吸収され残渣は残りません。		24/03/29
117	上から4行目	ちなみに標準的な経腸栄養剤のFischer比は3程度です。これらは肝性脳症発症時の経腸栄養管理時、あるいは補食およびILESとしての使用が勧められます。	これらは肝性脳症発症時の経腸栄養管理時、あるいは補食およびILESとしての使用が勧められます。ちなみに標準的な経腸栄養剤のFischer比は3程度です。		24/07/26
128	上から5行目	長期間留置すると胃液で硬くなり、胃粘膜を傷害することがあります。	長期間留置すると可塑剤が流出して硬くなり、胃粘膜を傷害することがあります。		24/07/26
129	Memoの本文上から2行目	胃酸で硬くなる性質がありますので、	可塑剤が流出して硬くなる性質がありますので、		24/07/26
第3章 静脈栄養療法のキホン					
148	表1キャプションの3行目	*2 浸透圧比:生理食塩水の浸透圧に対する比	*2 浸透圧比:生理食塩液の浸透圧に対する比		24/07/26
149	上から14行目	PPN 輸液は隔壁により糖・電解質とアミノ酸を別々の室に分けられるダブルバッグ製剤になっています。	PPN 輸液は隔壁によりグルコースとアミノ酸を別々の室に分けられるダブルバッグ製剤になっています。		24/07/26
151	上から8行目	●患者Aさん:体重 30 kg、軽度の侵襲を伴っている場合 栄養必要量: TEE = 924 kcal (28 × 30 × 1.1), アミノ酸 33g (1.1 g/kg), 脂質 25.7 g, グルコース 140.2 g, 水分量 1,050 mL (35 mL/kg) ●患者Bさん:体重 50 kg、中等度の侵襲を伴っている場合 栄養必要量: TEE = 1,680 kcal (28 × 50 × 1.2), アミノ酸 60 g (1.2 g/kg), 脂質 46.7 g, グルコース 254.9 g, 水分量 1,750 mL (35 mL/kg)	●患者Aさん:体重 30 kg、軽度の侵襲を伴っている場合 栄養必要量: TEE = 924 kcal (28 × 30 × 1.1), アミノ酸 33g (1.1 g/kg), 脂質 25.7 (15.4※) g, グルコース 140.2 (163.3※) g, 水分量 1,050 mL (35 mL/kg) ●患者Bさん:体重 50 kg、中等度の侵襲を伴っている場合 栄養必要量: TEE = 1,680 kcal (28 × 50 × 1.2), アミノ酸 60 g (1.2 g/kg), 脂質 46.7 (28.6※) g, グルコース 254.9 (297.0※) g, 水分量 1,750 mL (35 mL/kg) ※静脈栄養を見込んで脂質をTEEの15%として算出した場合		24/07/26
156	上から15行目	そうでなければ困りますね(第3章-1 参照)。	そうでなければ困りますね(第3章-1 参照)。ただし、リハビックス®-Kは1号と2号で電解質濃度が異なるので使用する際には注意しましょう。		24/07/26

173	上から12行目	水分量: $(\underline{2,000} \times 2) + (100 \times 2) = 2,200$ mL	水分量: $(\underline{1,000} \times 2) + (100 \times 2) = 2,200$ mL		24/03/29
213	上から8行目	重度の低栄養と判断して5 <u>kcal/kg</u> ではじめましょう.	重度の低栄養と判断して5 <u>kcal/kg/日</u> ではじめましょう.		24/03/29
213	上から17行目	10 <u>kcal/kg</u> 以上に増量して(表2, 3・4日目)	10 <u>kcal/kg/日</u> 以上に増量して(表2, 3・4日目)		24/03/29
第4章 病態別栄養療法のキホン					
222	下から8行目	水分量は <u>940 mL</u> 変更後は1,530 mLに増えます	水分量は <u>936 mL</u> 変更後は1,530 mLに増えます		24/07/26